

市に「ぼうさい井戸」

山形地域地下水
利用対策協寄贈

山形西小に設置



山形地域地下水利用対策協議会（会長・鈴木隆一）は28日、災害などの際、市民に生活用水を供給するための「ぼうさい

「ぼうさい井戸」の記念揚水を行う右から鈴木隆一山形地域地下水利用対策協議会長、市川昭男山形市長、佐藤節子山形市西小校長

山形市西小

井戸」を山形市に寄贈した。協議会が山形西小（佐藤節子校長）に設置した井戸で、停電時でも利用できる手押し式となっている。

同協議会の設立35周年記念事業で、井戸は4月に完成した。

同校で行われた贈呈式では、鈴木会長が「東日本大震災で平時の備えの大切さをあらためて知らされた。防災対策の一助となれば」と、市川昭男山形市長に目録を手渡した。市川市長、佐藤校長は「いざ」ときの生

活用水として地区で有効に使いたい」「子どもたちへの安全教育の中で、教師も防災対策を学んでいきたい。井戸は大事な教材になる」と感謝の言葉を述べた。

協議会は地下水の利用事業所・団体などで組織。2004年には山形市と協定を結んでおり、災害時には会員の井戸からくみ上げた地下水を生活用水として、市に提供することになっている。06年には同様の井戸を山形四中に設置、市に寄贈している。